

2024 年度 授業概要

科目名		高次脳機能治療学実習			授業の種類	実習	講師名		
授業回数	23回	時間数	45時間	(1単位)	配当学年・時期	作業療法士科3年		必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕									
脳損傷によって引き起こされる高次脳機能障害は、しばしば日常生活に大きな影響を及ぼすことになる。 損傷部位や観察および面接の結果をもとに症状を推測し、各障害像に合わせた神経心理学評価を選択、実施し、適切な対応方法を計画できるようにすることを目的とする。									
〔授業全体の内容の概要〕									
高次脳機能障害評価学の基礎知識を基にして、各症状の発生経緯・ADL上の問題行動・評価・介入ストラテジーを関連付けて、講義および演習にて学習する。									
〔講師の実務経験〕									
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕									
脳損傷患者の基礎情報（損傷部位・生活上で見られる症状など）から各障害像を推測し、適切な評価・介入方法を計画できることを目的とする。									
回数	講義内容								
1	高次脳機能障害の介入の基本（OTの視点を含めて）								
2	高次脳機能障害の評価の概要と評価計画の実際								
3	意識・注意機能障害と脳画像①								
4	意識・注意機能障害と脳画像②								
5	意識障害と認知機能障害について								
6	意識障害と認知機能障害および注意機能障害への介入								
7	半側空間無視および注意障害について								
8	半側空間無視の評価								
8	半側空間無視、視覚失認とその他の失認への介入								
10	記憶の障害について								
11	記憶の障害への介入								
12	言語の障害について								
13	言語の障害への介入								
14	感情障害について								
15	失行、行為・行動（社会的行動障害と感情障害）の障害について								
16	失行、行為・行動（社会的行動障害と感情障害）の障害への介入								
17	遂行機能障害について								
18	前頭葉機能障害・遂行機能障害への介入と脳画像の読影								
19	社会的行動障害とその介入（治療計画立案を含めて）								
20	症例を用いた評価計画の立案								
21	症例を用いた評価と治療計画の立案								
22	症例に合わせた治療プログラムの実践								
23	まとめ								
	定期筆記試験								
【 準備学習・時間外学習 】									
【 使用テキスト 】									
書籍名					著者名		出版社		
作業療法学ゴールド・マスター・テキスト高次脳機能障害学作業療法学 改定第2版							メジカルビュー		
CD-ROMでレッスン脳画像の読み方 第2版							医歯薬出版		
【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】									
履修規定に準じ、試験の結果を100点満点として60点以上の場合に合格とする									